

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植水中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	＜学習上の課題＞特に数学科では、理解度が二極化している。そこで、少人数指導を3年生から2年生に変更して実施する。理由として、受験前に1年間でも早く取り組み、苦手な生徒により早く対応することができれば、苦手な生徒を減らすことができるのではないかと考えたからである。他教科にとっても、2年生の少人数指導の成果を今年の課題とした。	⇒ スタディサプリを活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。その際、達成度を記録し、各自が達成状況や苦手な単元を振り返るようにする【毎週水曜日朝の会後に実施】。例年実施している少人数指導を3年生から2年生に実施し、習熟度にあった課題に取り組めるようにする【通年】。主体的に取り組むために、導入問題の工夫。対話的に取り組むために、多様な考え方が出る課題。深めるために、整数から、小数や分数・負の数までに広げてみる。
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞前の単元や昨年度の学習内容を活用することが苦手で、特に関数の単元が、数量分野の最後で学習する領域だが、既習事項を活用できない。さらに図形分野の性質や証明に時間を要する。 ＜指導上の課題＞基礎的、基本的な学習の習得に重きをおいているため、思考したり、表現したりする時間を十分に確保できていない。	⇒ 数学において、2年生で少人数指導を実施し、基礎・基本のコースと応用・発展な授業内容のコースに分けて、習熟度にあった内容の授業を選べるようにする。【通年】。1年生では、反転学習によって思考する時間を多く確保し、個人で考えたり、友達と教え合ったりする機会を作る【毎時間設定】。主体的に取り組むために、導入問題の工夫。対話的に取り組むために、多様な考え方が出る課題。深めるために、整数から、小数や分数・負の数まで、三角形を四角

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現	B	結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、正しい語句の漢字や意味を問われる問題が出題された。正答率は全国平均・市平均と共に上回った。理科の授業では漢字指定をするなど、日々漢字を書いたり読んだりする機会を意図的に増やしていることがこの結果につながったのではないかと考えられる。数学では、多角形の外角の意味を問う問題において、高い正答率を得た。理科では脊椎動物の分類や元素記号を問われる問題において、高い正答率を得た。一問一答の知識問題に関しては授業内で定期的に確認テストを行っており、その成果が出たと思われる。	
思考・判断・表現	数学では、問題に対して根拠を持って解答する力が高く見受けられた。日々の授業から理由を説明する習慣をつけていることが今回の結果につながったと考えられる。理科に関しては、身の回りの素朴な疑問に対して探求する心を持っているからこそ答えられる問題が多く、その正答率も全国平均を上回るものだった。得た知識を身の回りの現象などに使う習慣をつけることによって思考力は育まれる。そのトレーニングを行う場所が授業であり、そのトレーニングを正しく実行させるための方法を今後も模索していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	毎週のスタディサプリ実施を継続できた。 基礎計算が今後の方程式等の学習に生きてくると思われる。 二年生における数学の習熟度別授業では生徒の希望に沿って進められている。	特になし
思考・判断・表現	B	友達と教え合う活動を通して、自分の解答の過程をより正確に把握することができるようになった。様々な教え方があるため、問題を多様な視点から捉えることができるようになった。	特になし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)